

【令和 7 年度全国学力・学習状況調査】結果から

「全国学力・学習状況調査」：この調査は文部科学省が日本全国の小中学校の最高学年（小学 6 年生、中学 3 年生）全員を対象として、学力・学習状況の調査を目的として行うものです。学力を問う出題だけでなく、児童の学習環境や生活環境のアンケート調査も行われます。

今年度、本校では 4 月 17 日（木）に学力調査、4 月 24 日（木）にアンケート調査が実施されました。その結果につきまして、本校児童の学習や生活状況等の傾向を整理しましたので、お知らせします。

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○内容・領域

国語：「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
算数：「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」
理科：「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域

中央小学校の結果概要

- 国語、算数、理科のいずれも全国の平均正答率を上回っており、どの内容・領域も基本的な力がついています。
- 質問紙調査から、分からないことやくわしく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫できていることが分かります。
- ほとんどの児童が、学校に行くのが楽しく、普段の生活の中で幸せな気持ちになることがあると感じています。
- 多くの児童が、国語・算数・理科の勉強は将来、社会に出た時に役に立つと思っていることが分かります。一方で、国語や算数の勉強が好きだと思っている児童の割合は、全国平均と比較して低くなっています。

教科の結果

- ・国語、算数、理科ともに全国の平均正答率よりもポイントが高く、どの内容・領域も基本的な力はついています。
- ・問題形式でも、3教科とも「選択式」「短答式」「記述式」すべてでポイントが高く、無答率が低いことから、自分の考えをあきらめずにしっかりと答える姿勢が身についています。

質問紙調査の結果

- ・学習の中でタブレットなどの ICT 機器を活用することについて、楽しみながら学習を進めたり、インターネットを使って情報を収集したりすることができると感じています。一方で、ICT 機器を使って「情報を整理することができる」「プレゼンテーションを作成したりすることができる」については、全国平均よりもポイントが低くなっています。
- ・理科の勉強が「得意」「好き」と答えた児童の割合が全国平均よりも高く、また、授業や日常生活等の中で、理科に関する疑問を持ったり問題を見出したりしていることも分かります。
- ・基本的生活習慣について、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」についての肯定的ポイントは高くなっていますが、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」については低くなっています。
- ・ほとんどの児童が「自分にはよいところがあると思う」「先生は自分の良いところを認めてくれている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答しています。
- ・ほとんどの児童が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っていることが分かります。

【指導の充実に向けて】

- 学びの基盤を確かなものにするため、今後も中央小3つの大切にしたいこと（しっかり「あいさつ」しっかり「そうじ」しっかり「聴く」）の指導を継続するとともに、各クラスでの取り組み方について改善していきます。
- 子どもたちが主体的に学びに向かえるよう、そして、勉強が好きになるよう、取り組みを進めます。そのためにも本校の「強み・弱み」を意識し、校内研究「非認知能力の育成～学級活動を通して～」の取り組みを軸に、子どもの主体性を大切にしたい授業改善を引き続き進めます。
- 特別活動やたてわり活動を通して、誰かの役に立っているという経験を大切にしながら、子どもたちの自己肯定感の向上に努めます。
- 「笑顔あふれる中央小のコーナー（毎週金曜日の給食時）」で子どもたちの良い行動を紹介する取組などを継続していきます。
- 本校教職員は、今後も「主体的に活動する子ども」をすべての教育活動の中心に据え、子どもたちが安全・安心・安定した学校生活を送れるように努めます。